

湊 晶子

自由学園の教育理念、「思想しつつ 生活しつつ 祈りつつ」は、今日の日本の教育においてますます重要になっていると思います。日本のキリスト教学校の建学精神には「キリスト教に立脚した人格教育」と明記されていますが、羽仁もと子先生が言われる「生活しつつ」の視点が欠落しがちです。

聖書の言葉が、生き方にまで展開されなければ人を変え、社会を変革するところまで行きません。廣瀬薫先生は『良く生きる手がかり』に於いて、常に3つの質問で対応し、最後は「自分への問いかけ」で終わっておられます。まさに、今日最も必要とされる「生活しつつ」に到達する大切な質問です。

私は28歳で仕事に就き、今日まで国際基督教大学、東京基督教大学、東京女子大学、広島女学院大学と半世紀以上キリスト教主義の4つの大学で働かせて頂き、今年84歳を迎えました。その間育児休業法もない時代に3人の子育てをしつつ、特に女子教育に微力ながら力を注いで来ました。

2020年までに女性管理職比率30%の目標を立て、政府は「女性活躍推進法」を策定しました。現在どの大学でも「キャリア」といえば「就職」を意味し、就職センターはキャリアセンターに名称を変えました。私は女性として56年のキャリア生活から「キャリア」の概念を再構築すべきであると考えています。すなわち「キャリア」を次のように定義しています。「報酬が得られる職業に就いている時だけがキャリアではない。具体的に金銭化されない労働がある。主婦労働、ボランティア、教会奉仕、定年退職後の労働等各個人が全生涯にわたって形成した労働生活全体がキャリアである」と。すなわちキャリアとは神様が呼んで下さるその日までの労働生活すべてが含まれるべきです。寝たきりになってのベッドでの祈りもキャリアです。私は「ライフキャリア」の概念を定着させるべく今努力しています。

まさに、羽仁もと子先生の「思想しつつ 生活しつつ 祈りつつ」を現代に根付かせたいのです。後4年で自由学園は100周年を迎えます。『良く生きる手がかり』が用いられて、聖書の生き方が全生涯を生かす手がかりとして生活の中に根付くようにと願って止みません。

プロフィール

1932年生まれ。五代目クリスチャン。東京女子大学卒業後フルブライト奨学生としてホイートン大学大学院、ハーバード大学客員研究員。NHK英語会話中級講師、国際基督教大学アドヴァイザー、東京基督教大学及び東京女子大学教授。2002年より二期8年東京女子大学学長。現在広島女学院院長・学長。ワールド・ビジョン国際理事。2008年「ホイートン大学名誉卒業生功労賞・名誉博士号」授与。2005年「新渡戸・南原賞」、2010年「瑞宝中級章」「福音功労賞」受章。著書『新渡戸稲造と妻メリー 教育者・平和主義者として』（キリスト新聞社）、『女性を生きる』（角川書店）など。二男一女の母。



広島女学院大学 ゲーンズチャペル